

■会議結果報告書■

会議名称	令和3年度第3回札幌市子ども・子育て会議児童福祉部会
日時・会場	令和3年8月30日（月）14：00～16：45 子ども未来局大会議室（WEB会議）
出席委員 5名／8名中	松本 伊智朗（部会長）、伊林 潤、大場 信一、北川 聡子、箭原 恭子（敬称略）
傍聴者数	7名

議事	概要等
1 議題1 「札幌市子どもの貧困対策計画」の実施状況について	<p>&lt;審議概要&gt; 事務局より、下記資料の説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1-1 実施状況報告書（総括）</li> <li>・資料1-2 個別事業の実施状況</li> <li>・参考：前回児童福祉部会でご質問のあった事項について</li> </ul> <p>&lt;主な委員質問・意見&gt;</p> <p>○部会長 資料1-1の4ページのスクールソーシャルワーカーの数が増えているということについて、時間数や人数が増えているのは良いことと思うが、実際にどれくらい増えたのが明確になるため、フルタイムの人数換算だと何人から何人に増えているのかを後でお知らせしてほしい。</p> <p>○委員 指標3の「子どもを生み育てやすい環境だと思う人の割合」が低下していることについて札幌市としてどのように分析しているか。</p> <p>○事務局 出産、保育、子育て支援、教育等の様々な要因が複雑に関連していると考えている。なお、18歳以上の市民の方全般を対象とした「札幌市指標達成度調査」では47.6%で、年齢の高い方が割合が少ない傾向が出ており、昔に比べて子育て環境が厳しいと思われる方が含まれていると考えられる。また、0歳から5歳の子どもがいる世帯を対象とした「子育てに関するアンケート調査」でも同じ設問を設けており、こちらはやや高い52.7%となっている。</p> <p>○委員 この数値を上げていくために、みんなでどうすればよいかを考えていかなければならない。</p> <p>○部会長 年齢別の数値を出してほしい。</p> <p>○委員 ひとり親家庭スマイル応援事業について、資料ではコロナウイルス感染症の影響でオンラインイベントとしたため参加者が減少したと記載があるが、登録が複雑であったり、オンラインにアクセスしやすくする工夫などに問題があった。オンラインイベントだから参加者が少なかったというのは短絡的で、参加しやすくする開催手法が必要。</p>

○部会長

資料の記載は、オンラインのため減少とだけ記載するのではなく、実施方法に関して次につながるような記載に修正をした方がよいと思われる。

○委員

生活基盤の確保の点では貸付事業は大きな役割を担っている。社協が窓口になる小口の貸付には保証人や返済能力の関係で、審査に漏れる人がいる。自治体によっては民生委員が保証人の代わりになるところもある。社協の制度の有効活用の方法を検討することが今後の課題と思う。

○委員

指標⑧の「市内の社会的養護体制における「家庭的養護」の割合」が上昇しているのは評価できる。

青年期の支援を要する子どもは、精神科医療が必要な子どもも多い。資料4ページにある事業の「さっぽろ子ども・若者支援地域協議会」には医療関係者は入っていないとのことだが、医療との連携を視野に入れることが非常に重要と思う。

○部会長

生活保護世帯に属する子どもの大学進学率はほぼ横ばいだが、今後どのように進学を促進していくのか、生活保護の制度的な問題があると思うが、支援の方針、札幌市の考えを聞きたい。

○事務局

平成30年度から大学等への進学準備給付金制度ができ、大学進学率が上昇したと考えており、制度の着実な運用が必要と考えている。

また、奨学金などの制度について、高校3年の早い段階で、保護課が丁寧に説明することをひとつの方策としている。

基礎学力の問題もあるので、困窮者自立支援制度の中の学習支援事業を児童会館で月2回程度行っており、中学のときから基礎学力をつけること、将来の進路を考えることの支援を行っている。

○部会長

保護課のケースワーカーが世帯の親や子供に札幌市として応援できるということを伝えることが大事。例えばパンフレットを作って子どもや世帯に渡すなど検討しなければならないと思う。

○委員

大学進学や専門学校進学についての給付型奨学金や授業料無償化などの情報について、社会的養護の子どもたちへは施設が提供するが、生活保護世帯の子どもに対し情報が行き渡らないという状況がある。貧困の連鎖にならないような後押しが必要。

○部会長

特定妊婦は予想以上に数が多く子どもの貧困対策の観点から重要なターゲットである。特定妊婦と認定された事情により支援も変わってくるので、数だけではなく中

	<p>身のデータを示して議論すべき。</p> <p>○事務局 データは確認できておらず、今後担当部局と確認したい。</p> <p>○部会長 来年度は次の計画づくりの議論が始まるので、他の点もそうだが、自治体としてどのような方針で臨むのか、資料や市としての考え方を整理してほしい。</p> <p>○委員 特定妊婦について、麦の子会で妊娠葛藤相談を6月に行ったところ、去年1年間で11件だったところ、現在はLINEで1日1.5件くらいの妊娠に関する相談が来ており、潜在的な悩みがあると思う。</p>
<p>2 議題2 子どもの生活実態調査 市民アンケートについて</p>	<p>&lt;審議概要&gt; 事務局より、下記資料の説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料2-1 市民アンケート調査項目一覧(案)</li> <li>・資料2-2 小5・中2保護者調査票(案)</li> <li>・資料2-3 乳幼児(2歳・5歳)調査票(案)</li> <li>・資料2-4 小2保護者調査票(案)</li> <li>・資料2-5 高2保護者調査票(案)</li> <li>・資料2-6 小5・中2子ども調査票(案)</li> <li>・資料2-7 高2子ども調査票(案)</li> </ul> <p>&lt;主な委員質問・意見&gt;</p> <p>○部会長 補足だが、5月から札幌市と北大の教員で検討を行い、ほぼ内容は固まった。2016年に行った前回調査を踏襲し、いくつか項目を絞りコロナ関連の質問を入れた。</p> <p>○委員 年収と貯金額の質問に、「答えたくない」という項目は入れないのか。</p> <p>○部会長 調査票の最初に答えたくない質問は答えなくてよいと記載している。</p> <p>○委員 アンケート調査の対象に障がいのある子どもが含まれているので、小2以上の保護者調査票の制度利用の設問に放課後デイサービス、2歳児と5歳児の保護者票には児童発達支援を入れた方がよい。</p> <p>○委員 保護者票の相談機関の選択肢に医療機関も入れたらどうか。</p> <p>○部会長 子育て相談全体の相談場所というよりは市の機関に限定している。</p> <p>○委員 資料1-1の計画の成果指標にある「子どもを産み育てやすい環境であると思う人の割合」や「子どもが自然、社会、文化などの体験をしやすい環境だと思う人の割合」</p>

	<p>をこのアンケートでも拾えるように質問項目があってもよいと思う。</p> <p>○委員 質問票中に「障がい」と「障害」の字を使い分けているので、どのように使い分けているかの説明があってもよいのではないか。</p> <p>○事務局 今後の予定としては、アンケート回収後の集計・分析を経て2月、3月くらいに中間報告ができればと考えている。</p>
<p>2 議題3 ヤングケアラーの実態調査について</p>	<p>&lt;審議概要&gt; 事務局より、下記資料の説明を行った。 ・資料3-1 ヤングケアラーの実態調査について ・資料3-2 中高生の生活実態に関するアンケート調査【生徒用】(案) ・資料3-3 学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査(案)</p> <p>&lt;主な委員質問・意見&gt;</p> <p>○部会長 学校名を答える質問は必要か。小さい学校ではその子どもが特定し得る可能性、あるいは特定し得ると回答者が判断し得る。</p> <p>○事務局 個人が特定されないよう十分注意を払いたい。結果は非公表だが、学校にはフィードバックしてヤングケアラーの早期発見や支援に役立てたい。</p> <p>○部会長 学校にフィードバックするのであれば、学校の先生が特有的できる可能性がある。また、回答そのものは漏れが生ずるが、ヤングケアラーが本当はいるのに、調査結果はない場合に、そのまま対応が進むこともあり得る。 学校別ではなく、例えば、区別などにくくるのがよいのではないか。</p> <p>○事務局 庁内で検討させていただきたい。</p> <p>○部会長 ホームルームでの一斉回答について、回答率は上がると思うが、ヤングケアラーの当事者は回答に時間がかかり、誰がヤングケアラーであるか回りが分かることが懸念される。ヤングケアラーの子は回答を辞めることも考えられる。この対応はどのようにお考えか。</p> <p>○事務局 空いている時間に行う子どもの権利に関わるクイズや読み物など、ウェブ上の仕組みを作りたいと考えている。</p> <p>○部会長 うまく機能するか、トライアルする必要があるだろう</p> <p>○委員 中高生の時期は、他の子との違いを知られたくない。彼らを守るような形の調査方</p>

	<p>法は必要。また、区別の集計についても慎重にいかなければいけない。</p> <p>○委員</p> <p>中高生は、クラスで浮く・浮かないについてセンシティブであるため、この調査を学校で行うことは反対。この方法ではそのまま答えないだろうが、家に帰り、学校を通さず出すのであれば違うかもしれない。</p> <p>○委員</p> <p>答えやすい方法を第一優先で考えた方がよい。そこに答えてくれた答えが真実で、この結果を大切に分析していくことが大事である。</p> <p>また、高校生について、対象となる市立高校生が市内の高校生のどの程度を占めているか、示していった方がよい。</p> <p>○部会長</p> <p>それぞれ同様の観点でのご発言であった。実施方法についてはご検討いただきたい。調査の内容については、大体ご了解いただけたということで承知した。</p>
<p>3 議題3 令和3年6 月死亡事案 について</p>	<p>非公開</p>
<p>4 その他</p>	<p>(議事概要について、発言者に内容確認済み)</p>